

残響

花火大会の夜

人気のない公園に行った
私はスーパーで買ったセットを
彼はバケツを持って

打ち上げ花火を背に
線香花火にライターを近づけ
寿命を競う

私の勝利を喜びかけた瞬間
口の中にはマルボロの味
鼻の奥には火薬の残り香
耳には連打のクライマックス

遠くから流れてくる歓声
見えないスターマイン

恥じらいの導火線が燃え進み
顔を上げることができず
押し寄せる音だけが心の底に響く
煙がすべてを隠す